

ますはら

「果たすべき責任」

「私には買い戻すことはできません。私が先祖から受け継いだ地を損なうこととなります。親戚として私が果たすべき責任はあなたが果たしてください。私は買い戻すことはできません。」

(ルツ記 第4章6節・旧約聖書410頁)

はじめに

先回は「神の養い」を捨てたことで祝福を失ったかに見えたナオミが、悔い改めて神のもとに戻ってきたその時を取り上げ、その帰還が生活をするために、また信仰の道をやり直すためにこれ以上ないタイミングだったことを見ることができました。神は人知を超えて驚くべき扱いをしてくださるのです。今回は、その神の御手の中にある者たちの幸が続いていくことを見ることにします。

買い戻す

ルツ記の後半は「買い戻す」が鍵語です。ナオミはエリメレクが残した土地、正確には土地は神のもので、神からの使用権を持っていた、わけですが、その使用権をモアブに行った際、売ってしまっていたようです。そのため、自分の土地でありながら、その土地の使用権を買い戻さなければ使えませんでした。しかし、そのような力はなく、ルツを落ち穂拾いに出させるしか生きる道がなくなりました。

そこにボアズが現れます。彼はルツを妻とすべく、その使用権を買い戻そうと決意しますが、優先権は他の親戚にあったため、親戚会議を開き、そのことを確認します。すると近い親戚が買い戻すという。すかさずボアズは言います。「ご存知のように買い戻しは、その土地に関わるすべての人の生活、将来の責任を負うことになっていますが、老女のナオミと外国人のルツの面倒も見ることになりますよ」。すると、その親戚は「あなたに譲ります」と答え、ボアズ

の買い戻しが成立したのです。

ナオミの困窮

神は私たちに土地、つまり生きる舞台を提供してくださっており、私たちは使用権を得て、生きていなければならないものです。だから、そこから得た収穫を神にお返しするわけですが、ところが、私たちはその使用権を売ってしまうようにして、神に背を向けてしまったのです。その状態では、買い戻されなければ、生活ができません。ですから、神に対する態度によって、行き詰まりを生じてしまうのです。そこで何も生産ができない、帰ってきたナオミのような状態です。

責任を果たす方

その状態を憐れんでくださったのが、ボアズ、私たちの主イエスです。主はご自分の身を代価にして、私たちの土地を買い取ってください、再びそこで生きられるようにしてください。それが買い戻し、そして贖いのみわざです。買い戻しの規則に従い、私たちのすべての人生を負ってください、その責任を果たしてください。

ボアズの買い戻しの後、「主がルツを『みごもらせ』」たことで、ナオミはその子オベデによって「魂を生き返らせ」「老年を支え」られていきました。私たちは主に買い戻され、主がその責任を果たしてくださいからこそ、安心して生きられるのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「私には買い戻すことはできません。私が先祖から受け継いだ地を損なうこととなります。親戚として私が果たすべき責任はあなたが果たしてください。私は買い戻すことはできません。」(ルツ記 4:6)
「こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された違反の贖いとして、キリストが死んでくださった結果、召された者たちが、約束された永遠の財産を受けるためです。」(ヘブライ人への手紙 9:15)

私は自分の人生を神さまに背を向けること



で、また神さまを無視することで、私自身の手で、行き詰まらせてしまいました。それを再び生かすために、私の人生を買い戻してください。それが、主イエスであることがわかりました。その買い戻すための代価にご自分を献げられたのです。なんと申し訳ないことでしょうか。しかも、そのことで私の人生の責任を負ってくださると約束してくださいました。私は主イエスさまによって生かされているのです。これからも安心して、私の責任を負ってくださる主イエスさまをお頼りします。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (41) 第2章21~22節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「正しい人は地に暮らし 全き人はそこにとどまる。悪しき者は地から絶たれ 裏切り者はそこから抜き去られる。」

◎口語訳 「正しい人は地にながらえ、誠実な人は地にとどまる。しかし悪しき者は地から断ち滅ぼされ、不信実な者は地から抜き捨てられる。」

◎新改訳 「正直な人は地に住みつき、潔白な人は地に生き残る。しかし、悪者どもは地から絶やされ、裏切り者は地から根こぎにされる。」

「全き人」

「善良な人の道」の「善良」が、「神は…良しとされた。」(創世記 1)に用いられている「良し」であり、人間の最もふさわしい状態を指しているのだと解説をしました。この箴言には、それと同義語のように使われている言葉が多く登場します。「正しい」や「全き」も同様です。また、他訳にもあるように、「誠実」「正直」「潔白」なども、私たちに御言葉の豊かさをもたらす表現です。

特に、「全き人」は口語訳では「誠実な人」、新改訳では「潔白な人」となっています。原語を調べてみると、「非難されない」とか「他の人から後ろ指を指されることがない」、品行方正な状態を指していることが分かります。例えば「ノ

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1 ~ 9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1 ~ 22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17 ~ 31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17 ~ 24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1 ~ 29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1 ~ 33)
 - d レムエルの言葉 (31:1 ~ 31)

アはその時代の中で正しく、全き人であった(創世記 6:9)なのですが、邪悪な時代の中でも、間違ったことをしなかった姿勢を「全き」と表現しています。アブラハムにも「全き者でありなさい」(創世記 17:1)と求められています。つまり、「世の中に流されないように」することが強調されているのです。ですから、その状態と対比されて用いられている「裏切り者」は、世の中の力に負けて流されてしまった人となります。

誘惑が多いこの時代、その誘惑に勝つ手段は「知恵の言葉」しかないのです。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

創世記第48章15節「父祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ 今日に至るまで生涯を通して私の牧者であられた神よ」◆長いヤコブの生涯を読む中で、彼のいやな性格にふれ、なぜ神はこのような人物を愛されるのだろうか、と思うことがある。恐らく本人もわかっていたのではないかと考える。だから、こんな愛される資格などない自分を、神は憐れんで今日まで養ってくださったとの思いが、この祈りの言葉にあらわれたのだろう。私たちは不真実であっても、神は真実であるゆえに私たちを養われ、導き、救いを成就してくださるのである。

●賛美 / 310 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

創世記第49章33節「ヤコブは息子たちに命じ終えると、足を寝台に収め、息絶えて、先祖の列に加えられた」◆波乱に富んだヤコブの生涯、彼は自分の子たちを祝福して静かに息絶えた。「先祖の列に加えられた」という言葉はアブラハム、イサクの時にも言われている。これは祖父、父の信仰と比べられてしまうと、自分はどうだったのか。そう考えると、なんともおこがましく思ったに違いない。まさに「憐れみ」だったのだが、神の恵みとは、すべてを度外視してもたらされるもので、人間の判断ではなく、神がもたらす憐れみと慰めのわざなのだ。

●賛美 / 311 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

創世記第50章20節「あなたがたは私に悪を企てましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」◆ヤコブが死ぬと、ヨセフの兄弟たちは報復を恐れた。赦されないだろうとこの時点でも思っていた。だがヨセフは、神の恵みとして自分の流転の生涯を「感謝」していたのである。神の遠大な計画の全貌が明らかにされ、ヨセフは自分がそのために用いられたことを知って、喜びに満ちていた。神は私たちの「涙」の経験を「喜び」へと良きに変わらせてくださるご計画をお持ちであることを忘れてはならない。

●賛美 / 312 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

出エジプト記第1章8節「ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに立ち、」◆ヤコブ一族は長居をしすぎてしまった。客の立場はヨセフやヨセフの功績を知っている者たちがいなくなっ、いてほしくない客「ヘブライ」（よそからの者）と呼ばれるようになっていった。この章の中に4回も出てくる。私たちは、自分のいるべき場所をはっきりと持つべきである。私たちは神の国の国籍を持つ者であり、世に依存してはならない。神に頼って歩み続けていくべきなのだ。そのような意味で、よそ者の意識を持っていなければならない。

●賛美／313 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

出エジプト記第2章6節「開けてみると、赤子がいた。それは男の子で、泣いていた。彼女は不憫に思って、」◆この章からモーセの物語が始まる。モーセの両親は隠しきれなくなり、ナイル川の川辺に置いた。そこにファラオの娘が身を洗うために川におりてきた。そこでパピルスの籠を発見した彼女はそれを開けた。するとその時、幼子モーセが泣いたのである。パロの娘は泣く幼な子の声を聞き、自分の子として育てることを決意した。絶妙のタイミングでなされる神のみわざ、そして、徐々に舞台が整えられていく様子は、見事というしかない。

●賛美／314 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

出エジプト記第3章11節「私は何者なのでしょう。この私が本当にファラオのもとに行くのですか。私がイスラエルの人々を本当にエジプトから導き出すのですか。」◆モーセはミデヤンの地で妻の父エトクの羊を飼っていた時、神の語りかけを聞いた。神はイスラエルの悩みのゆえに、彼らをエジプトの地から導き、カナンの地に至らせようとしていると告げる。そして、そのためにあなたを立てるといふのだ。自分にはできない。モーセはそう思って辞退しようとしたが、神がなされるのである。それを信じ切るものこそ、神の栄光の目撃者となるのである。

●賛美／315 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

出エジプト記第4章20節「モーセは手に神の杖を持っていた。」◆モーセは2つのしるしを示されて、自分の召命の確かさを知った。断りの理由の一つでもあった「雄弁ではない」ことは兄のアロンをもって補うと言われた。この神の迫りに抗しきれず、彼はエジプトに向かう決断をする。そこで彼は神の杖を執った。これは神が共にいてくださるという約束のしるしである。彼はただこの神の約束だけを頼りに、そしてそのしるしである杖を握りしめて向かったのである。信仰とは、神の約束のみに寄り頼んで全人的に御言葉に服従することである。

●賛美／316 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【ルカによるふくいんしよ 7: 1~10】

「おことばをください」

(ルカ 7: 7)

みんなが がっこうにいくと せんせいから「では きょうかしょを ひらいて しらべてみよう」とか、「こんどは そとにでて たいそうをするよ」などと、いわれたことがありますよね。

そのとき、あなたや、クラスみんなは どうしますか？せんせいの いわれたことに したがいます。

わたしたちの ぐらしのなかには そのようなことが たくさんあります。「ここは きげんなので はいってはいけません」と いわれたら、はいらないように、とてもたいせつな ことばを かけられることがあります。

ここにでてくる ひゃくにんたいちょうは たくさん の へいたいの せんとうにたっているひとで、このひとの めいれいには みんなが したがうように きめられていました。たとえば、「ならびなさい」といわれたら、みんなが ならび

ます。「まえにすすめ」といわれたら、まえにすすむのです。

あるひ その ひゃくにんたいちょうの へいしの ひとりが びょうきになりました。そのことが、イエスさまのもとに しらされました。そこで、イエスさまが そのへいしの ところにいこうとしたところ、おどろいたことに、たいちょうは、「こなくてもいい」とつたえてきたのです。そして、こういいました。「わたしの めいれいすることばに みんなが したがうように、あなたのことばは かみさまの ことばですから、あなたが なおれと いてくださるだけで、そばに こられなくても、かならず びょうきが なおります。

そうです。「ひかりあれ」といわれたら、ひかりがあったと、あるように、かみさまが ことばによって このよの すべてをつくられたのです。にんげんの びょうきを なおすことなど、できないはずがないのです。

そうしんじていた たいちょうの しんこうを イエスさまは、おほめになりました。

●かんがえてみよう

☆ひゃくにんたいちょうの しもべは どうなってしまっていましたか。(ルカ7: 2)

☆イエスさまが いこうとしたら、ひゃくにんたいちょうは なんと いてきましたか。(ルカ7: 7)

☆ひゃくにんたいちょうは、なぜおことばだけをくださいと いったのですか。(ルカ7: 8)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

おとくばをくだらにい

	お	ば		さ		く	こ	を
	く	さ	い				だ	お
		と	お	く	を	ば		
	こ	い				だ	ば	さ
	を				い	こ	お	と
			こ	と	ば			
		を			と	お	く	ば
く	と	こ	ば	い				だ
		お	く	を			と	こ

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① たかいてをたどう
- ② こないととろおく
- ③ いものとけん
- ④ ろうそくご

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「選ぶ」

照ノ富士が引退し、横綱不在になりそうだった大相撲ですが、豊昇龍が見事、横綱に昇進、空位を避けることができました。ただ、このような切羽詰まった事情だったことから、昇進についてはいろいろ取り沙汰されており、その矛先は日本相撲協会だけでなく、横綱審議委員会に向けられています。

私がいまも疑問なのは、双羽黒の横綱昇進です。やはり横綱が空位になりそうだった時代だと思えますが、優勝を一回もしていないで、推挙されたん

です。横綱の推挙状には「品格、力量抜群につき」とあるのですが、この双羽黒、双葉山と羽黒山というものすごい横綱のしこ名をもらいながら、トラブルを起こして1年あまりで角界から追放されるように廃業してしまうのです。横綱審議委員会前代未聞の大失策でした。そのあと、レスラーになっていましたが、人気も出ずに短期間でリングからも去って行きました。

今入試の時期もありますが、ふさわしい人を選ぶのは大変です。その人となりも審査されるはずですが、とにかく、基準に到達していなければ落とされます。ところが、聖書に出てくる神さまの選びって、すごいんですよ。こんなしょうがない私も神さまの恵みを受ける者として選ばれているんですから。

聖書ふれあい街歩き

●アジア

ペトロの手紙一の冒頭にあるクリスチャンたちの寄留地、Pontus、ガラテヤ、カパドキアに続き、アジアを取り上げます。

現在、一般的にはヨーロッパを除いたユーラシア大陸、中東や極東と呼ばれる地域を指す言葉になっているアジアですが、もともと古代メソポタミアで使われていたアッカド語で、太陽の昇る「アスー」に、ギリシア語の接尾語がついた「アスーイア」から来たようです。

このペトロの時代にはアジアはトルコ西部を指していたのですが、それは、この地域を支配したギリシア、ローマからの位置が関係しています。彼らにとってまだ東はインドの手前までしか到達していませんでした。当時の世界地図の東が中東止まりだったのです。

有名なボスボラス海峡を越えた、その場所がアジアになったのです。そして、ローマ帝国がそれぞれの地域を分割統治するようになって、トルコ西部の地域を「アジア州」と呼んだことで、ペトロの手紙にも地域名として出てきています。この時、小アジアともよばれていた地域には、主要都市であったエフェソをはじめ、黙示録に出てくる7つの教会がありました。今もトルコでも主要な都市になっています。

ななめ聖書 先週のこたえ

ね	が	び	ず	し	た	に	み	ふ
し	に	た	ふ	み	び	な	ず	が
ふ	み	ず	ね	が	に	た	び	し
が	ね	し	た	ふ	み	ず	に	び
に	た	ふ	し	び	ず	が	ね	み
び	ず	み	が	に	ね	し	ふ	た
み	し	ね	に	た	ふ	び	が	ず
ず	び	が	み	ね	し	ふ	た	に
た	ふ	に	び	ず	が	み	し	ね

- ①しんこうがないのか
- ②なぎになった
- ③おぼれしぬ
- ④むこうぎし



大目に見ておられる時

「私たちは神の中に生き、動き、存在しているからです。

皆さんのうちのある詩人たちも、『我らもその子孫である』と言っているとおりです。私たちは神の子孫なので、神である方を、人間の技や考えで刻んだ金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。

さて、神はこのような無知な時代を大目に見てくださいましたが、今はどこにいる人でも皆悔い改めるようにと、命じておられます。

先にお選びになった一人の方によって、この世界を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの実証をお与えになったのです。」

(使徒言行録17:28~31)



神は大目に見ておられる

【終末が来る】

パウロは、ギリシア神話に出てくるゼウスの子孫であるとの詩人の言葉を、そのゼウスは神を指しているのだと言い換えています。哲学者も詩人もすべての者たちが生命の根本を探っているものの、到達できず、また混迷を深めている状態を「知られざる神」と表現し、真の神へと導こうとしています。そして「人間の技や考えで」神を作り、拝んでいるが、そのようなちっぽけな神ではないのだと声高に説きます。

ここで、注目すべきは、神がどのような方であるかを語った後、パウロが「裁き」について言及し始めたことです。

一般的には、神がどのような方であるかを伝えた次は、人間の罪について語ります。そして主イエスの十字架を語るのですが、パウロが語ったのは、神が正しく裁く時が迫っているから、悔い改めるようにとの内容です。何か唐突で、聞く者たちは「裁き」が何かわからず、戸惑うのではないかと考えてしまうほどです。

確かに、主イエスの道備えをしたパプテスマのヨハネは「悔い改めにふさわしい実を結べ」と叫んでいますし、主イエスも「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣教しています。しかし、これは、旧約を生きてきた民たちだからであって、聖書を読んだこともない人々にはピンときません。なのにあえてパウロが語ったのはなぜでしょう。

今や、環境問題など、多岐にわたる危機意識の高まりにより、キリスト教だけではなく、多くの人たちが「終末」、つまり、近いうちにこの世は滅亡するのではないかと考えています。しかし、

「世の終わり」については、いつの時代にも文化を超え、民族を超えて存在していたようです。それは神が「永遠を思う思いを与えられた」(コヘレト3:11)と同時に「世が減びること」を植え付けておられたからに他なりません。

つまり、ここでも、この時も、「世の終わり」に関する興味の高まりがあったのだらうと考えられます。

もともとギリシア神話には「世界の終わり」に結びつくような内容が含まれていますし、たとえば、先に触れたストア派は、宇宙は周期的に「創造と破壊」を繰り返すと考えていました。周期的にもたらされる滅亡の際には、世界は火によって焼き尽くされ、その後、再び回復するのだとの思想です。また、恐らく東西交流が行われていた時代ですから、ペルシアから発生したゾロアスター教の影響もあったに違いありません。ゾロアスター教には「世界の終末」と「最後の審判」という概念があり、世界がローマによって支配され、ある程度の平和が保たれていたことにより、この平和は長く続かないのではないかと、そろそろ破壊の時代がくるのではないかとの見方も加速していたのかも知れません。

パウロの「大目に見てくださっている」との言葉は、神の寛容を説きながらも、その裏では「いつ終わりが来るか分からないぞ」と脅すようにもとらえることができる、切迫感を醸し出す意味が含まれています。短期決戦に挑んでいるパウロは、「信じるのか、信じないのか。はっきりしないと、いつ裁きがくるか分からないぞ」と、ギリシアの人々に信仰の決心を促していたのではないのでしょうか。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者合同記念礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

